

史料群番号 23

史料群名	みよしたかし <b>三好孝家文書</b>	旧所蔵者	三好孝
探訪時住所	茨城県行方郡麻生町麻生		
現在の住所	茨城県行方市麻生		
探訪年月	昭和26（1951）年6月		
史料の年代	明治13（1879）年～明治41（1909）年	史料の総点数	450点
年代の内訳	近代 450点	筆写稿本	あり
既刊行目録	「昭和五十年三月 水産庁水産資料館所蔵古文書目録- 水産庁水産資料館・日本常民文化研究所」「平成十八年三月 水産総合研究センター所蔵古文書目録-福島県・茨城県・栃木県・千葉県関係史料- 水産総合研究センター・神奈川大学日本常民文化研究所」		

収蔵にいたる経緯

探訪の際の書類に、備考として「興農社関係のものは資料として寄贈していただきます」と記されている。興農社とは行方郡の開拓結社弘農社のことで、現在中央水産研究所に収蔵されている本史料群も弘農社関係のものである。ところで、農政調査会が昭和28年に発行した「地租改正関係農村史料集」に三好家文書の史料が翻刻されていて、内容は弘農社に関するものである。これらの史料は神奈川大学日本常民文化研究所に収蔵されているが、元来中央水産研究所所蔵の「三好孝家文書」と一体だったと考えられ、おそらく農政調査会の史料集を作成する際に分離されたものであろう。

史料群の概要

探訪地の麻生は、霞ヶ浦と北浦の間にあり、近世は常陸国行方郡麻生村があって、麻生藩の陣屋が置かれていた。明治22年に麻生町となり、平成17年に行方市となった。

「弘農社」は、明治13(1881)年7月に茨城県の行方郡一帯（旧麻生町、旧潮来町、旧玉造町、旧北浦町を含む770町）の荒蕪地を開拓する目的で設立された開墾結社である。史料は、大多数が弘農社の設立、運営及び解散後の残務整理に関するものである。三好家にのみ関わるような史料は皆無といってよく、弘農社に關係する史料だけを注意深く選んだ結果であろう。なお、弘農社の社長は三好琢磨で、困難な時期に社長に就任し、弘農社の解散以降も残務整理委員会の委員長として整理にあたった人物である。

なお、本史料群の詳細については「水産総合研究センター所蔵古文書目録」を参照していただきたい。

